

ゾウアメフラシの種小名 *gigantea* はラテン語で巨大なという意味です。その名のとおりに、本種は体長 70cm にもなる巨大アメフラシです。

2003 年に日本の太平洋側の各地で大発生しましたが、それまでにもダイバーによって「ジャンボアメフラシ」の名前で知られていたようです。高知県でも一部のダイバーが目撃していたようですが、公開された画像はないようです。本来の生息地はオーストラリアの南西海岸です。本種は体の横にある側足が大きく、これを広げて泳ぐことができます。目の前ですーっと泳いだ時は驚きました。



2004 年 4 月 20 日ヘリオス前で採集したアメフラシ。

左の写真は土佐湾沿岸で普通に見られるアメフラシです。この種は体長 30cm ほどにしかありません。アメフラシはアオサなどの海藻を食べます。ゾウアメフラシもおそらく同じ食性と思われます。

アメフラシ類は巻き貝の仲間で、申し訳程度の殻を持つか、あるいは殻を欠きます。早春、潮間帯にふやけたインスタントラーメンのような不思議な物体が転がっています。これはアメフラシ類の卵塊で、海素麺と呼ばれています。

温暖化に伴い、動物相は刻々と変わっています。浦戸湾も例外ではありません。

2004 年 7 月 14 日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせは FAX 088-844-8310（町田研究室直通）をお願いします。